

現役世代も高齢者も安心の介護保険制度に

舟木けんじ市議 一般質問②

舟木けんじ市議は11月議会一般質問で、介護保険制度についてとりあげました。

「介護保険制度は国の社会保障削減路線のもと、利用者・家族の負担を増やし介護サ―



舟木けんじ市議員

ビスを受けにくくする改善が

コロナ禍 中小企業や事業者まもれ

たちばなふみ市議 一般質問②

たちばなふみ市議は11月議会4項目質問しました。一つ目の新型コロナ禍で市民を守る施策のうち、中小事業者支援について報告します。

たちばな市議は、コロナ融資の返済が始まり中小企業や小規模事業者は不安を抱えているとして「松江市として実態をどのように把握している



たちばなふみ市議員

把握に努め早期の納付指導を行い、年々滞納者は減少し収納率も上がっている」「令和3年度の給付制限は1年以上滞納し『支払方法の変更』が1人、2年以上滞納の場合の『給付額の減額』は35人、このうち介護サ―ビス利用者は21人」「令和3年度の差し押さえは99人、460件、513万3200円で、物件は年金のみ」「滞納者の方と納付相談の機会を設け、本人の意向を確認し同意を得たうえで実施している」「今後も滞納者の生活実態の把握に努め、保険料負担の公平性確保の観点から適切な運用を行っていく」と答弁しました。

「9月末の滞納者1016人、滞納率は1・68%。隣戸訪問を増やし滞納者の生活状況の把握に努め早期の納付指導を行い、年々滞納者は減少し収納率も上がっている」「令和3年度の給付制限は1年以上滞納し『支払方法の変更』が1人、2年以上滞納の場合の『給付額の減額』は35人、このうち介護サ―ビス利用者は21人」「令和3年度の差し押さえは99人、460件、513万3200円で、物件は年金のみ」「滞納者の方と納付相談の機会を設け、本人の意向を確認し同意を得たうえで実施している」「今後も滞納者の生活実態の把握に努め、保険料負担の公平性確保の観点から適切な運用を行っていく」と答弁しました。

とし「ゼロゼロ融資を通常の債務から切り離し、別枠債務とし、事業継続に必要な新規融資が受けられる金融・融資スキーム構築を」と市の見解を質しました。

松浦徹産業経済部長は「返済開始のピークは令和5年6月から7月で、資金繰りに窮している企業にとつてこの返済が大きな負担だと認識している。税金の猶予や減免の相談はないが商工会議所や商工会に対して資金繰りの不安、売上が戻っても経費増大で利益がでないなどの相談が寄せられている。関係機関と連携し国・県の支援制度を注視し必要に応じて支援を検討する」と答弁しました。

敵基地攻撃くりかえさない

太平洋戦争開戦の日 赤紙配布

岸田政権が敵基地攻撃能力の保有や、軍事費2倍化を打ち出す中、12月8日、81年目の太平洋戦争開戦の日を迎えました。この日JR松江駅前

で、島根県母親運動連絡会が赤紙を模した反戦チラシを配布しリレートークで平和を訴えました。

この行動は、若者らが赤紙一枚で戦場に送られた時代を想像してもらおうと日本母親大会が1980年から毎年12月8日に全国各地で行ってい

る平和の連鎖行動です。

参加者は、ロシアがウクライナに侵攻し核の脅しや国際法違反の破壊を続ける中、日本が軍拡路線を打ち出したとして「軍事対軍事では紛争を拡大させるだけ」「真珠湾攻撃はまさしく日本の先制攻撃。日本国民300万人、アジアで2千万人の被害をもたらしたこの戦争から学んで生まれた日本国憲法、九条をまもろう」「唯一の戦争被爆国日本は核兵器禁止条約に参加を

安保3文書閣議決定に抗議

しまね総ががり行動実委が集会

岸田政権が「安保3文書」を閣議決定したことを受け、しまね総ががり行動実行委員会は12月27日、JR松江駅前

で「大軍拡・軍事費2倍化・大増税 勝手に決めるな!」緊急集会を開きました。

約80人が「武力で平和はつくれない」「軍事費2倍は生活破壊」などと

「新しい戦前」にしない!

書かれたプラカードを掲げ抗議の声を上げました。安保関連法の廃止を求める島根大学人の会の関耕平・島根大教授が主催者あいさつし「『軍



9のキャンドル前に集う参加者

戦争体験者で語り部活動を行う西尾幸子さん(90)は手紙をよせ「太平洋戦争が始まった頃、隣組の組長をしていた母は、組にあてがわれた国債を子どもの多い家や夫が戦死した家でも買って貰わねばならず心痛めていた。そのお金は戦闘機や爆弾など、人殺しの道具に使われたのかと虚しく悲しい。今、国債まで発行して軍事拡大すれば、かつての戦争の繰り返しとなる」と岸田政権の憲法ふみにじる軍拡路線を批判しました。

市民4氏と日本共産党、立憲民主党、社民党の3党がリレートークしました。日本共産党を代表して尾村利成県議(党県副委員長)は「岸田内閣は総辞職し、岸田首相は退陣すべきだ」と訴えました。



赤紙を模したチラシを受け取る高校生たち